港湾新聞

2017年12月19日付

# 北陸地整が日本埋浚協会と「若手技術者発表会」を開催

10/31

北陸地方整備局は、(一社)日本埋立浚渫協会北陸支部(以下、埋浚北陸支部)と共同で、10月31日(火)午後1時半から、新潟県・新潟市の北陸地方整備局2階港湾空港会議室で、「若手技術者発表会」および表彰式を開催した。

小池北陸地整港空部長

上杉日本埋浚北陸支部長

発表会は、新潟会場、金沢港湾・空港整備事務所および敦賀港湾事務所と福井の各会場をテレビ会議システムによりつないで行った。北陸地方整備局49名、埋浚北陸支部53名の計102名が参加し、熱心な質疑応答を行った。

北陸地方整備局港湾空港部は埋浚北陸支部と共同し、平成25年10月に「北陸の港湾・空港の活性化に向けた検討会」を立ち上げ、「若手技術者の確保・育成」「契約手続きの効率化」「施工・品質管理の改善」等の共通課題に対し、今後の在り方などについて検討を進めてきた。

今般、受注者・発注者双方の若手技術者のスキルアップを図るため、港湾・空港建設に従事する若手技術者自らが携わった工事や調査等に関する体験発表会を開催したもの。

はじめに小池慎一郎北陸地方整備局港湾空港部長が「自分が担当した業務等をこうした発表会で報告することは、自らの経験を見直すきっかけになります。また、経験をより深めることで自らの技術力を向上させることにもつながります」と主催者を代表してあいさつした。

発表に移り、若手技術者が「港湾・空港建設に従事する若手技術者自らが携わった工事や調査等に関する体験」をテーマに発表し、質疑応答を行った。

以下、発表者・テーマ・Q&Aとする。

北陸地方整備局新潟港湾・空港整備事務所の加藤真朗氏が「海洋投入処分する浚渫土砂の性状把握方法について」

Q調査項目選定案を選定した理由は?

新潟港事務所の加藤氏

中谷北陸地整港空企画官

A調査範囲選定案は、対象範囲に傾向が見られなかったため、簡易分析法案は、浚渫作業を止めてしまい時間ロスが生じるため不採択とした。

五洋建設㈱の出村拓也氏が「遮水護岸における最終締切時に発生する潮流対策について」

Q潮流対策はいつの時点で対策を検討したか?

A受注後、施工に当たっての課題として抽出し、対策を検討した。

北陸地方整備局新潟港湾空港技術調査事務所の菅遥洋氏が「ドラグサクション浚渫兼油回収船『白山』の投げ込み式油回収機更新について」

Q高粘度油回収機は、白山建造時に存在していたのか?

新潟港事務所の菅氏

五洋建設の出村氏

A高粘度油回収機が今般開発され、更新することとした。

㈱本間組の犬井晋太郎氏が「護岸築造工事を経験して」

Q現場での施工で大変だったことは?

A自分自身も含め作業員の熱中症対策、健康管理を特に留意した。

東亜建設工業㈱の中谷健登氏が「沈埋函鋼殻内における充填コンクリート打設について」

Q不良品は返却したとあるがどれくらいの割合か?

Aコンクリートミキサー車で1函当たり4、5台分くらい。

東洋建設㈱の池本将大氏が「離岸堤基礎工事の課題とその対策」

Q設計図書において、捨石は潮取り投入の仕様だったのか?

Aその通りです。

北陸地方整備局敦賀港湾事務所の門前直樹氏が「敦賀港強震計移設に伴う常時微動観測の実施とその活用について」

Qこれまでの敦賀港の入力加速度と鞠山南地区の入力加速度との関係は?

A鞠山南地区では、地震波が増幅していることが分かり、岸壁(水深14㍍)の設計に今回の結果を反映した。

東亜建設工業の中谷氏

本間組の犬井氏

発表者から、「今後も技術の改善に努めたい」「多方面から探求することが自らの経験になった」「経験が大きな財産になった」等の感想があった。

次に講評に移り、中谷誠志北陸地方整備局港湾空港部港湾空港企画官が全体を通して講評した。

続いて、小池北陸地方整備局港湾空港部長と上杉春男(一社)日本埋立浚渫協会北陸支部支部長が表彰を行った。港湾空港部長賞を加藤氏、出村氏、中谷氏、池本氏が、奨励賞を菅氏、犬井氏、門前氏がそれぞれ授賞した。

会の終わりに、上杉埋浚北陸支部長が「本日発表いただいた皆さまも含めた若手技術者の方々は、それぞれの現場で、自らまたは先輩から学んだ技術を蓄積し、より高め、その技術を後輩に伝えていただきたいと考えます。本日の若手技術者発表会は、技術の伝承を進める上で貴重な取り組みとなると思います」とあいさつし、閉会した。

敦賀港事務所の門前氏

東洋建設の池本氏

北陸地整と埋浚北陸「若手技術者発表会」の模様

「若手技術者発表会」表彰式の模様